

ハットするよみもの

# テクノロジー・リフレーミング

vol.3



ゲスト

渡邊 淳司

(NTT コミュニケーション科学基礎研究所  
人間情報研究部 上席特別研究員)



対話者

山内 泰

(大牟田未来共創センター理事)



01

ダイアログ・レビュー

## 制御型から自律型へ:「ウェルビーイングの探求」を支える技術のありかた

### 「なりきる」を支える技術:触覚メディアの可能性

人の実感に寄り添う技術のありかたを、渡邊さんは示唆してくれます。トークで話題となったのは、「なりきること」を支える技術のありかた。つまり「柔道の試合」や「鱧を包丁で切ること」を、その実態を精緻に伝達するのではなく、伝達できる情報をきっかけとして、あたかも同じ体験が内発的に生まれてくるかのように働きかけることでした。この「なりきり」をサポートする点で、触覚情報には可能性があると言います。

### 自律型テクノロジーとウェルビーイング

渡邊さんは、こうした技術を、規定の状況の再現性を極める制御型のテクノロジーではなく、受ける側の主体に意味や動きが現れる自律型のテクノロジーだと整理します。面白いのは、これはウェルビーイングの話でもあると渡邊さんが指摘している点です。制御型テクノロジーでは、「正しい情報」が受け手に先立って規定されており、受け手はそれを受け取ります。でもそれは個々人に先立って「Well」が予め規定され、これを実現するアプローチと同じでしょう。一方で自律型テクノロジーでは、受け手のそれぞれに個別の体験が立ち上がりますが、これは個々のBeing(存在)を起点にそれぞれのWellが立ち上がるアプローチを示唆します。この後者のありかたをウェルビーイングだと渡邊さんは考えるのです。

### 「問いのプロセス」としてのウェルビーイングと技術

こうした視点を得ると、ウェルビーイングを実現するテクノロジーは、所与の規範を人に当てはめるものではなく、人と一緒に独自の規範を探究していく伴走型のものとなるでしょう。渡邊さんの実践でも、ウェルビーイングカードのようなメディア的技術を介して「よくわからない私」が表現され、それとの対話を通してその人固有のウェルビーイングが模索されるありかたが提案されています。

トークでは、NTT研究所で実践されているピニールハウスでのセンシングにも、渡邊さんがウェルビーイング的なものを見出していることが話題となりました。そこでは、様々なセンシングが示すデータをきっかけに「どうなることが良い状態なのか」を現場のみんなと模索するプロセスが重要視されています。環境における「よくわからない何か」がセンシングを通して「データ履歴の集積」として表現されると、それらとの対話を通して、何がWell-being(良い状態)なのかが探求されていく。こうした「問いのプロセス」をデザインする上で、人間の言語や感覚では捉えることが難しい要素に表現をもたらす技術が、ウェルビーイングを支援する上で、重要な価値を生み出しているのです。

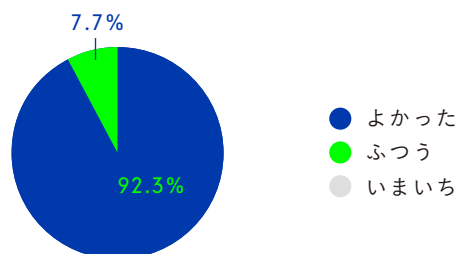
## 02

リサーチャー・ボイス

## 参加者の声

- Well-being を考えるステークホルダーに未来の自分を含めて考えるという視点を持っていなかったので、勉強になりました。(社会研)
- アジャイル環境センシングの研究をしてきたのですが、今日は自分たちで想定していた以上の文脈で話題に上がり、考えさせられました。状況に合わせてセンシングシステムを作ることが、well-being の考えと非常に考えが近いことを知りました。(CS 研)
- ウェルビーングに関する技術を考えるときに正しさ、絶対、客観的、普遍性などを求めるのはナンセンスなんだと気づくことができました。自身の取り組みの中でどう反映していけばいいのかまだわからないですが少し理解が深まった気がします。(人間研)
- フリートークの時間含め非常に有意義な時間でした。また次の機会も参加させていただきます。最後少し話に出たバルセロナなどの自主性には私も注目していて、今日のテーマの1つでもなかった、構造と個性の落としどころを見つけるための1つの指針でもあると思います。また、そういった自主性を高めるためにも必要な人材の重要性も論点になり良かったです。(CD 研)
- 元々は心とか幸せとかふわふわした不確定的な事象については自分では仕事としては取り扱いたくない(現実世界で重要ということは感じていて他の人の取り組みとして遠くから眺めるのは興味深いけど)という考えを持っていたのですが、図書館セミナーシリーズへの参加を通じて一歩ずつふわふわしたほうに近づいていく勇気が身についてきた気がします。今後も一生懸命考えていきたいと思います。(人間研)
- そもそもこういった活動自体が数少なく貴重な機会なので、楽しかった。これからもシリーズとして続けてほしい。(CS 研)

## 本日のセミナーいかがでしたか？



## イベント概要

シリーズ「その技術は人を幸せにするのか リターンズ」  
「わたしたち」であるための技術とは!?

日時: 2021.12.20(月) 13:00-16:00 オンラインでの実施

## ゲスト: 渡邊 淳司

(NTTコミュニケーション科学基礎研究所 上席特別研究員)

人間の触覚のメカニズム、コミュニケーションに関する研究を人間情報科学の視点から行なう。また、人と人との共感や信頼を醸成し、ウェルビーイングな社会を実現する方法論について探究している。主著に『情報を生み出す触覚の知性』(化学同人、2014、毎日出版文化賞(自然科学部門)受賞)、『見えないスポーツ図鑑』(共著、晶文社、2020)、『わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために』(共監修・編著、ピー・エヌ・エヌ、2020)など。

## 対話者: 山内 泰 (大牟田未来共創センター理事)

一般社団法人大牟田未来共創センター(ポニポニ)理事、NPO法人ドネルモ代表理事、株式会社ふくしごと取締役。有識者との対談等の実績多数。その他、共創学会理事、大学講師(九州大学)など。「挫折のデザイン〜パーソンセンタードにおける新しい主体性」(『デザインに哲学は必要か』武蔵野美術大学出版、2019)、「ぐにゃりのまち 超高齢社会」以後の地域経営モデル(Sustainable Smart City Partner Program, NTT, 2020)、「わたしの役柄」が表現すること哲学者・國分功一郎さんとの対話から」(『精神看護』, Vol.23, No4, 医学書院, 2020)等